

洗濯場

神島では天然の淡水の供給源が限られているため、島の人々は最近まで数基の井戸と雨水でやりくりしなくてはなりませんでした。この中核的な洗濯場は、水を節約するのに役立つとともに、洗濯をする近所の女性たちの社交の場としての役割を担っていました。女性たちは、おむつなどの汚れた衣類を最も下流で洗い、汚れの少ない衣類をより上流で洗うよう工夫していました。一番上流の水がきれいなところは、最後のすすぎのために確保されていました。1979年に、隣の答志島の水道から村に水が引かれました。この洗濯場は現在ではもう使われていないものの、島の歴史の共同的な側面を反映する場所として今も残されています。